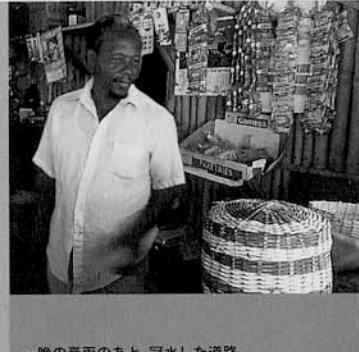




モパン人の家で衣服や  
日常具を求める  
(ペリーズのサン・アントニオ村)



一晩の豪雨のあと、冠水した道路  
(ベリーズのブンタ・ゴルダ近郊)



ガリフナの資料を  
探しているのを聞きつけ  
村人たちが物をもって  
集まってきた  
(ペリーズのホブキンズ村)

バスが出発する。しかし小さな車なので、なかなか踏ん切りがつかず、さらに待つ。夕闇が迫ること、意を決して渡ることにした。わざわざ窓の外を見ると座席上あたりまで漫水しているではないか。何とか渡り切ったものの、もつとへどである。それからリバースで車まではまだまだ距離があつたが、何とか深夜にたどり着いた。

データを集めながら収集を

祭りや市が立つ日には、風呂敷に物を

のであろうか。

外国のあるチームが一年かけて土器を丹念に収集したという本を手にし、羨望に駆られたことがある。わたしの収集はそれとは対極的な収集であつた。基本的な資料が集まつた現在半年とか一年をかけて、じっくりとデータを集めながら収集をすることが望ましい。そんな提案を何年も前にしたのであるが、実現していない。効率とか成果とかが優先され、まだやつたりした考證が浸透していない。それはまだ日本が元気のいい証拠なん

には山刀姿の男たちをよく見かける。女たちはというと、頭に風呂敷包みを乗せ、背に子どもを背負った姿が一般的である。おそらくもち歩いている物は大切な家財道具一式であろう。だから村に収集に行くと、使われている状況や物についての情報は確かに集まるが、苦労して村に行つたわりには、物は少ししか集まらない。たくさん物を集めようと思うと、町にかかるが、物の情報はそれに反比例する。

最近の博物館や美術館は、休憩スペースがふんだんにとつてあってゆつたりしている。それに引き替え、民博の展示場では、物がところ狭しと並んでいる。日本が元気のいいときに展示されたためで、休憩スペースなど考えもしなかつた。収集も、展示を充実させるために、まずは基本的な物をできるだけたくさん集めることが必要であつた。

アテマラの収集をおこなうべく、メキシコで、すぐさま立ち入り禁止になつてしまい、近づけない。どうしようもないのに、先にグ

のは、夜中であつた。

やメキシコでも大きな地震が起つていて、なかでも一九八五年九月一九日の朝に起つたメキシコ大地震は忘れがたい。ゆるやかな揺れがなかなか止まらない。地震には慣れっこになつてるので、地震が起きたときにはベッドの下や机の下に隠れることがいついたなどんきに構えている(うち)」戸は聞く。天井や壁がバラバラ落ちてくる。どうもふつうの地震とは違う。さすがにこれはやばいと思い、ホテルの六階から瓦礫だらけとなつた階段をあわてて降りた。町に出てみると、ビルが至るところで崩壊している。二〇日近く収集した物を倉庫を借

ことで、レンチを出してタイヤを交換しようとしたところ、レンチが摩耗していて、困ったことにボルトがはずれない。ベリーズは、近畿五府県を足したほどの面積に、たつた二〇万人ほどしか住人がいない。だからベリーズ市を出ると、ほとんど人に会うことがない。二時間経つても、三時間経つても、車は一台もとあらない。どうしようもないでの、覚悟を決めて野宿するしかないかと考え始めた矢先、幸運の女神が一台のジープをよこした。事情を話し、レンチを借りるとなんとびったり合うではないか。次の町で、バンクを修理して、ガリフナの資料を

## 物は町に、情報は村に —反比例の関係—

八杉 佳穂  
(やすき よしほ)

本館民族文化研究部



メキシコ大地震  
(1985年)  
写真提供:アフロ

## メキシコ大地震に遭遇

をあおにした。幸い倉庫も品物も無事であったが、倉庫が潰れていたら、違うホテルに泊まっていたら、と思うと、今さらながら運の良さを感じる。

ベリーズでは大雨に立ち往生